

■演題 8 LECS の国際化を目指した web アンケートによる意識調査

代表演者：後藤修 先生（慶應義塾大学腫瘍センター）

共同演者：〔慶應義塾大学腫瘍センター〕木口賀之、飽本哲兵、光永豊、藤本愛、落合康利、前畑忠輝、西澤俊宏、浦岡俊夫、矢作直久

〔慶應義塾大学一般・消化器外科〕竹内裕也、川久保博文、北川雄光

【目的】LECS は本邦で保険収載され、より低侵襲な局所切除法として急速に普及している。今後本法を国際的に普及させる上での課題を探索する目的で、web アンケートによる意識調査を施行した。

【方法】海外の治療内視鏡エキスパート 35 名に対して、LECS の認知度と臨床経験、技術的難易度、コストパフォーマンスおよび期待度に関する web アンケートを行った。

【結果】25 名のエキスパートより回答を得た（回答率 71%）。回答者は欧州（56%）、アジア（28%）、北米（12%）の順で多く、所属は内科（76%）、内視鏡科（16%）、外科（8%）の順であった。LECS のコンセプトは 96% に認知されていたが、実臨床経験は 40% に留まっていた。技術的には概ね可能（極めて簡単：12%、簡単：52%、可能：28%）で、LECS は極めて有用（84%）もしくは有用（8%）と判断されており、全回答者が LECS 導入に前向き（導入したい：84%、導入可能：16%）であったが、許容できる手術時間は 2 時間以内が 64% と最も多く、期待する費用は USD3,000 以上が半数以上を占めた。

【結論】今回の意識調査から、海外において LECS は実行可能で有用な手技であると考えられており、積極的な導入が望まれていることが明らかになった。一方で、実際の普及において解決すべき課題は費用対効果であることが示唆された。